

Title: 「明日はどっちだ」



 徳田 輝太  
Keita Tokuda 1985年  
生まれの食べざか  
り。世界という大海  
へ向け、今、旅立と  
うとしています。

## ● 最近のエントリー

■ メルボルン\_2

(2010.10.31)

■ メルボルン\_1

(2010.10.31)

■ シドニー\_2

(2010.10.31)

■ シドニー\_1

(2010.10.31)

## ● アーカイブ

■ 2013年06月

■ 2011年01月

■ 2010年10月

■ 2010年09月

■ 2010年08月

■ 2010年07月

■ 2010年06月

■ 2010年05月

■ 2010年04月

■ 2010年03月

■ 2010年02月

■ 2010年01月

■ 2009年12月

■ 2009年11月

■ 2009年10月

■ 2009年09月

■ 2009年08月

■ 2009年07月

■ 2009年06月

■ 2009年05月

■ 2009年04月

■ 2009年02月

■ 2009年01月

■ 2008年12月

■ 2008年11月

■ 2008年10月

■ 2008年09月

■ 2008年08月

■ 2008年07月

■ 2008年03月

■ 2007年11月

■ 2007年10月

■ 2007年09月

■ 2007年06月

■ 2007年05月

■ 2006年10月

■ 2006年09月

■ 2006年08月

■ 2006年07月

■ 2006年06月

■ 2006年05月

■ 2006年04月

■ 2006年03月

## ● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校

NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

RSS 2.0

Lines of sight

～それぞれのアジアへの視線～

10.10.31 明日はどっちだ &gt; 2010年10月 アーカイブ

メルボルン\_2

Tweet

1,142件

チェック

この日はアンザック・デイでした。

アンザック(ANZAC)とはオーストラリアとニュージーランドの連合軍の名称です。  
第一次、第二次世界大戦、朝鮮戦争、  
ベトナム戦争などに参戦した軍人を祝福し、犠牲者の慰靈を行うそうです。



テレビ中継も行うそうで、  
街の中から慰靈碑までけっこう長い距離をパレードします。

声援が出たり、沢山の人を見ていきました。

しかしやはり戦闘中の話になると、  
ここでも高齢化が進んでいるみたいです。



何のアートフェスティバルなのか、すっかり忘れていましたが、  
大きなイベントをやっていた。

日本はもちろん色々な国のチャラリーが出展していて、  
オーストラリア特有のアボリジナル・アートのチャラリーも出していました。

やっぱりこういうイベントは  
色々な種類の作品が沢山見れるから楽しいですね。

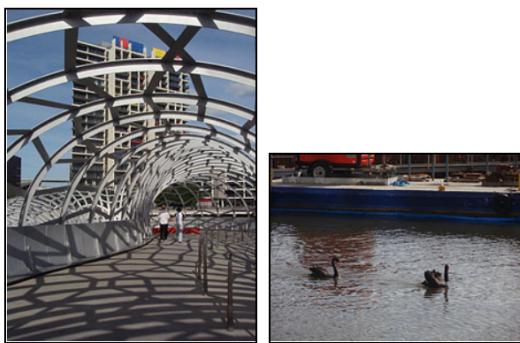




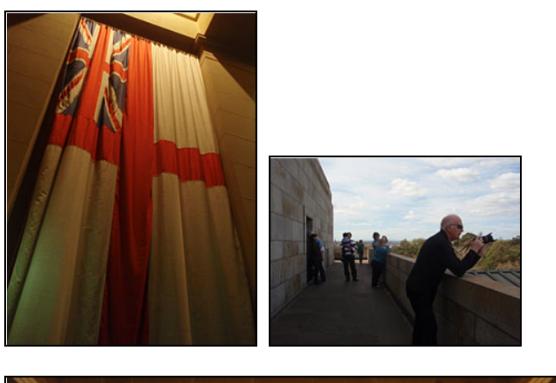
サザンクロス駅



白鳥によく似たオーストラリア固有種のコクチョウが普通に泳いでいます。  
オーストラリアの動物には本当にびっくりです。



戦争慰靈碑の中。





少し歩いて、海まで。



前にロンドン周辺に行ったときに感じた、綺麗だけど家の中が小さいのではないかという印象をここでも感じました。

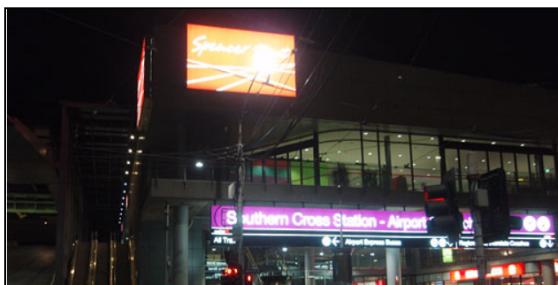
実際メルボルンは英國統治時代から影響を強く受けている、英國よりも英國っぽいなどとも言われるそうです。歴史を感じさせてくれる街並みが色濃く残っています。



そして、バブに行ってオーストラリアっぽい。食べ物をご馳走になりました。すごく美味しかったです！ご馳走様です。



最終日にやっとオーストラリアを肌で感じたように思います。何度も思いますか、やはり現地にいる人と会って話さないと駄目ですね。





楽しかったです！

またぜひ行きたいオーストラリア。

カテゴリ:

post by 徳田 欽太 | 日時: 2010.10.31 | [バーマリンク](#)

明日はどっちだ > 2010年10月 アーカイブ

## メルボルン 1

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

シドニーからメルボルンに到着。  
飛行機にて1時間20分。

やはりちょっと南へ行ったからでしょうか。  
北半球ではへ行くと寒いイメージで。  
少しシドニーよりもひんやり涼しいです。

空港からバスでメルボルン・セントラル駅へ。  
シドニーでもメルボルンでも  
すごく空港から街までのアクセスが分かりやすいです。

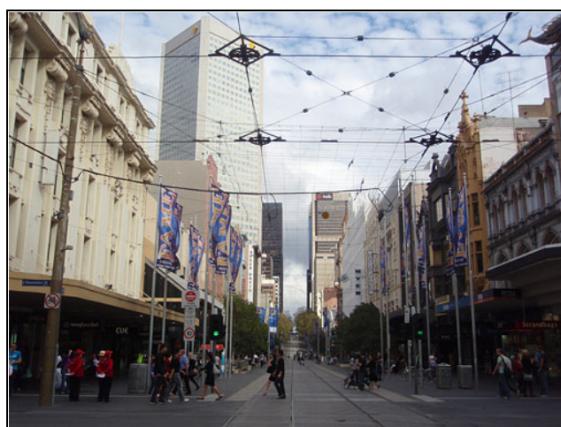


2度、世界一暮らしやすい都市に選ばれたことがあるこの街。

そんな、メルボルンですぐ目に入るのが

tramです。

街と郊外を縱横無尽に走るtramにバスを買って一日中乗ってれば  
それだけで楽しいと聞くくらい。  
時間があったら、ぜひ一日券を購入してぐるぐる回りたいところです。



フリンダーズ・ストリート駅。

メルボルンの有名地。  
この黄色い駅の前で待ち合ををしている人たちが沢山います。



アボリジナル・ギャラリー

オーストラリアの原住民、アボリジニの作品が数多く展示されています。

彼らの作品は、一見現代アートのようにも、点描画にも見えてしまいますが、実は一点一点意味があって、地図や暗号だといわれています。

しかし現代ですから、世界中どこにでもあります。  
後継者問題が大きな問題となっているようです。



自然と共生して、文字を持たない彼らだからこそ生まれた表現。

近代化の波ももちろん受け、

生活習慣や宗教観の変化は誰にも止められません。。

昔ながらの価値観を持ち、

作品を創る事のできる人は少なくなってきたというそうです。

しかし、展示されている作品はどれも素晴らしいものばかりです。

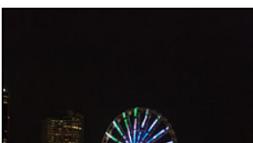
アボリジニたちの画を見る時は、ぜひ彼らの歴史も一緒に。



大道芸もしてて、  
観光客を何人も巻き込んですごい盛り上がってました。



第一次、二次大戦の慰霊碑。





やはり、乗るべきはこのトラムなんでしょう。

しかし、どうも乗り物に乗らず全て歩いてしまう自分。  
結局メルボルンで一度もトラムに乗らずに過ごしてしまいました。。



なにが驚いたって。  
街行く人がしっかりと赤信号で待ってる事です。  
右にも左にも車もtramも来でないにもかかわらず、  
しっかりと待つみなさん。  
自分も習ってなるべく待つようにはしてました。。



大きな教会。

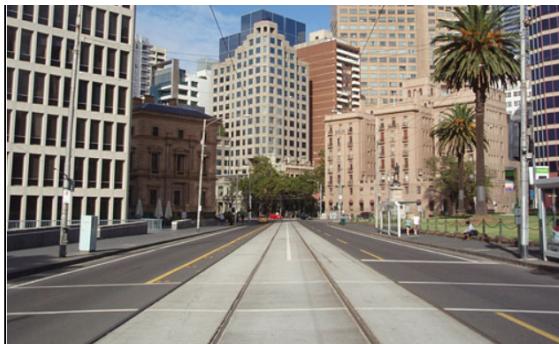
黒っぽい石で造られていて、彫刻が印象的でした。



街の雰囲気は都市の色がすごく強いシドニーより、  
自分もメルボルンのほうが好きです。  
やはり、ちょっとゆったりした印象を受けました。

さすが、世界一暮らしやすい都市に選ばれただけあります。





メルボルン2へ続く。

カテゴリ:

post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.10.31 | [ハーマリンク](#)

明日はどっちだ > 2010年10月 アーカイブ

## シドニー 2

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

1788年に最初の移民船団がシドニーに来ました。

それから早200有余年。

昔の街並みや開拓の様子、ハーバーブリッジの建設の記録写真など、博物館にいろいろあって楽しいので、シドニーに来たときはぜひ。

中でもやはり、アボリジニーの歴史は沁みます。

シドニー・セントメリーダ聖堂



このハーバーブリッジがシドニーの名物になる説がよく分かります。

物凄く存在感があって。

橋の前を沢山通るフェリーと一緒に見ていてなぜか落ち着きます。

良い景色です。



そして、そのフェリー乗り場。  
行き先がたくさんあって、動物園などもここから行けます。  
しかし、フェリーも色々小難しいことがあるので断念。。



以前テレビにて、シドニーの街を歩く。

という番組を見たことがあったので参考にしつつ、街の歴史を続けます。



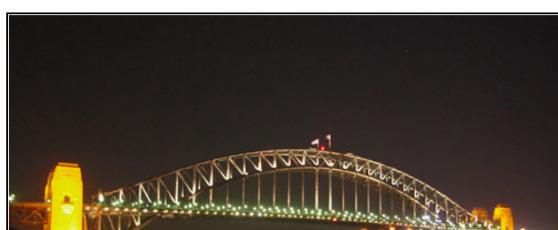
シドニーではやはり海と港。  
フェリーや、ポート、船の存在感を強く感じます。

しかし、そこから街の中に入っても良い雰囲気で、  
あの雰囲気は好きです。



夜景。

ハーバーブリッジ。





オペラハウスに来たら、やはりオペラや、  
少なくとも何かの公演を絶対に見たいところ。

だがしかし、  
今回は色々な都合により、入場を断念せざるを得ませんでした。

残念極まりないです。  
次回訪れる機会があった時はぜひ中へ行きたいです。



ハーバーブリッジの上から

オペラハウスとシドニーの街並み。





そして地下鉄に乗り、空港。



シドニー → メルボルン。



メルボルン1へ続く。

カテゴリ：  
post by 徳田 欽太 | 日時: 2010.10.31 | [バーマリンク](#)

明日はどっちだ > 2010年10月 アーカイブ

## シドニー 1

[Tweet](#)

いいね！ 0

チェック

旅へ行ってきました。

初の南半球、、

オーストラリア!!!!

オーストラリアいったら、何でしょうか、  
コアラにカンガルー、アボリジニー、エアーズロック、  
オージービーフ、、、そして、広がる美しき大自然。

行きたいところは沢山ありますが  
今回の旅ではシドニーとメルボルンへ。  
オーストラリアの右下あたりの2都市だけです。



日程の都合上、メルボルンに深夜入り。

空港の職員さんに

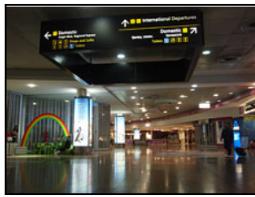
職 「君、これからどこ行くの？」

徳 「シドニーに行きます。」

職 「えっ？？ しどにー？  
NO。 Sydney ね。 Sydney」

どうやら、日本語ではシドニーと D の音が強いですが  
英語の発音になるとスィッニーのように聞こえます。

早朝の便の為空港内でもまたなければいけませんでした。  
静かな空港の端っこの方やベンチで若干寒い中皆さん休んでいました。  
同じく翌日の Sydney 行きの時間まで休む自分。



そして早朝  
タイガーエアにてメルボルン→シドニー。



シドニーに到着。  
都会です。  
ビルが高い。そして、何より気候が最高！



シドニーといえばやはり一度は見てみたかった、  
貝殻やヨットの帆を思わせるオペラハウス。  
そこを目指して街を散策開始。



シドニーにはボタニカルガーデンという公園のような植物園があって、  
そこでどうしても気になってしまう点が一つ。

動物です。

日本で一般の街中や公園で見る動物といえば、  
犬、猫、カラスに雀、その他いろいろな小さい鳥。。そんなものでしょうか。

しかし、ここで普通に見ることができる動物たちは一味違います。  
日本では動物園の中でもしか見れないのではないか?  
と思われる動物たちばかり。

写真に見ることのできる、  
木の上に沢山山から下がってるサイズ大きめのコウモリ。  
変わってる色のちょっと大きめの鳥。

そして、なにやら白くて大きめの鳥の様なものが群れをなして  
観光客に餌をもらって食べています。  
日本でいえば鳩が餌をもらっているのと同じ状況です。

近づいてみると、それはなんと、

オウム、アオ

。。。。。

それも白くて一匹体長約50cm。でかい！！  
それが鳴るように餌を食べている光景には感動しました。  
ちなみにオウムはキバタンという種です。

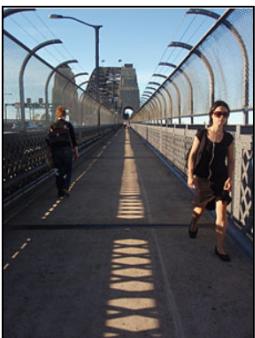
さすがオーストラリアです。違う！



そして、このガーデンにて驚いた事がもうひとつ。

ランニングをしてる人たちがまた多いこと。

日中の仕事をしているであろう時間なのにもかくわらず、  
やたら渋山の大人たちが良い天気の中ランニングをしています。  
自分も少しは走りに出たりしますが、  
皆さんの速さにはびっくり！  
みんな速さで自分は絶対に走れません。。



シドニー・ハーバーブリッジの上から。

その橋にはクライムツアーや、橋のアーチの上に登るというツアーがあります。  
その高さなんと地上134m！  
ビルでないといい30階の高さって、高い！  
そんな高さまで登っちゃ、足が震えるのは間違いないですね。

挑戦したかったですが、色々恐れのため今回は断念。

しかしクライムツアーや、橋のアーチの上に登るというツアーがあります。  
その高さなんと地上134m！  
ビルでないといい30階の高さって、高い！  
そんな高さまで登っちゃ、足が震えるのは間違いないですね。



ハーバーブリッジからのオペラハウス。

沢山のボートが行き交います。



シドニーではやたら「ホテル HOTEL」という名の、  
所謂お酒を飲む場所、バーが多いように思います。

そこへ行って「今晚空いてますか?」  
なんて聞いたら、そりゃお門違いで、  
会話の後にはちょっと恥ずかしい苦味が残ってしまいます。

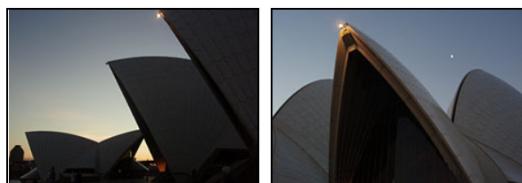
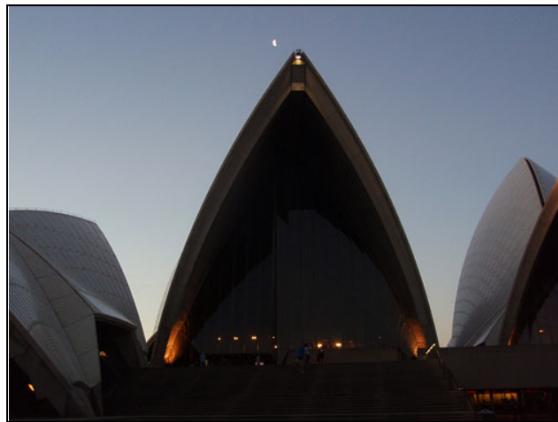
なぜ、じゃあホテル?

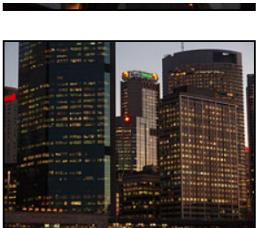
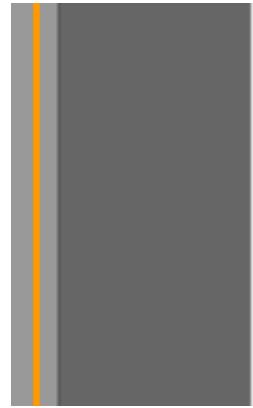
それは開拓期まで遡ります。  
当時はお酒を深夜まで売ることは違法でした。  
しかし宿泊施設のある場所では、  
宿泊に酒を販売することを認められていたため、  
お酒を出す店は上階に簡易の宿泊施設を設けて  
名称を「ホテル HOTEL」としました。

その名残が今も残っているんですね。



オペラハウスで迎えるマジックアワーの夕暮れ時。  
きっとオペラハウスの綺麗さはこの時間が一番です。  
なんせ魔法にかけられてますから。って。





シドニー2へ続く。

カテゴリ:

post by 徳田 敏太 | 日時: 2010.10.31 | [バーマリンク](#)

Copyright 2007 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS